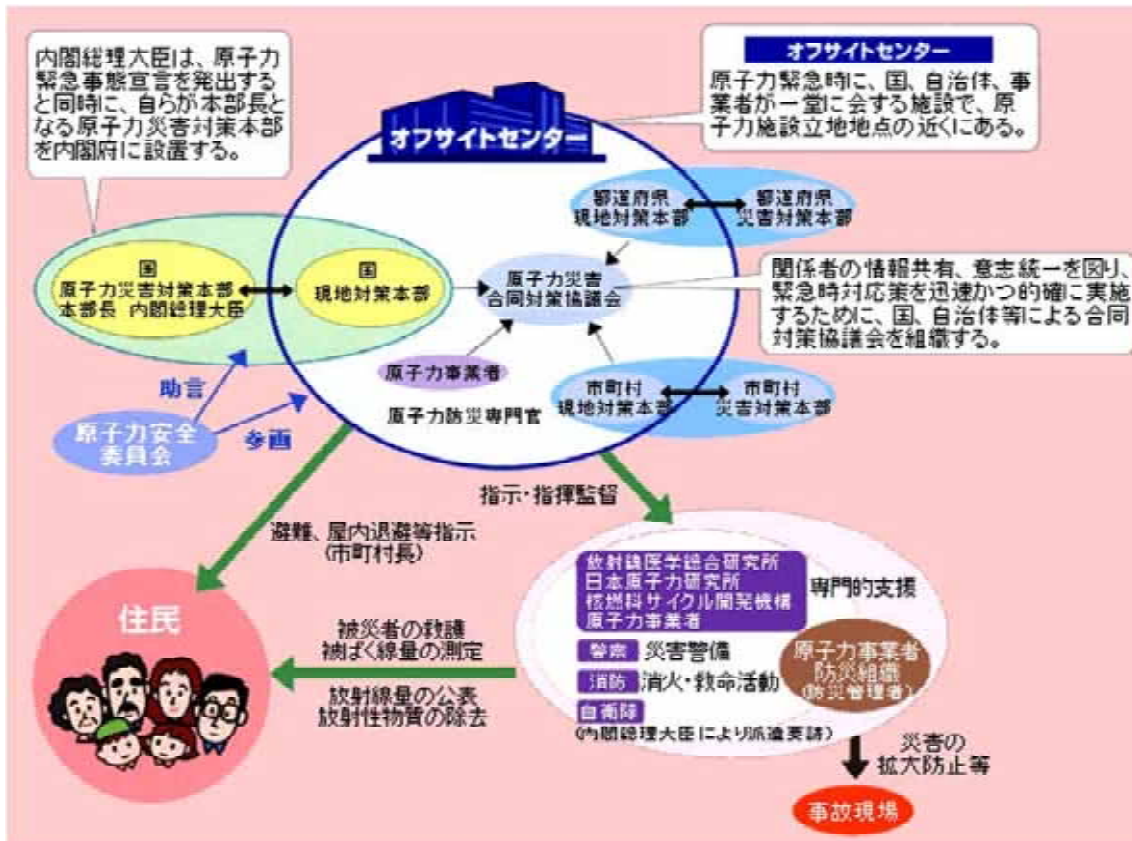


放射性物質が人体に与える影響を検討してきた食品安全委員会は「悪影響が見出されるのは、生涯の累積で 100 ミリシーベルト (mSv) 以上」とする結論を纏めた。

健康被害は内部被曝、外部被曝を分けることはできない、として外部被曝を含めた生涯累積線量を示すことにした。ただし、自然にある自然由来の放射線量は除かれる。

また、子供は成人より影響を受け易いから、きめ細かな基準値を決めるべきです。



: 11月18日、千葉市で開催されたシンポジウムで、非常に関心を呼んだ報告があったので記載します。

報告したのはロシア連邦立小児血液・腫瘍・免疫研究センターのルマンツェフ・センター長。

チリノブイリ原発事故から25年以上も経った今日でも、周辺住民の放射性セシウムによる内部被曝が続いていると、ロシアの小児癌専門医がシンポジウムで報告した。

更に子供の免疫細胞も減少している可能性があることも明らかにした。

2009 ~ 2010年にベラルーシに住む約550人の子供の体内の放射性セシウムを調べると平均で約4500ベクレル、約2割の子供からは7000ベクレル以上の内部被曝があったと推定される。

2003年にベラルーシで亡くなった成人と子供の分析では、脳や心筋、肝臓などを調べた8臓器すべてからセシウムが検出された。どの臓器でも子供の方が濃度が高く、甲状腺からは1kg当たり1200ベクレムが検出された。